

●4刷りにて訂正

ページ	章	修正箇所	修正前	修正後																																																
p.133	第8章「頭部外傷」	表8-2	<p>表8-2 TCDB分類によるびまん性脳損傷の割合と転帰</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>良好群GR/MD (%)</th> <th>不良群SD/VS (%)</th> <th>死亡群D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>diffuse injury type I</td> <td>45.2</td> <td>21.0</td> <td>33.9</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type II</td> <td>40.0</td> <td>22.9</td> <td>37.1</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type III</td> <td>9.0</td> <td>6.9</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type IV</td> <td>15.0</td> <td>10.0</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>total</td> <td>24.0</td> <td>13.9</td> <td>62.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>diffuse injury type I : CT上明らかな頭蓋内病変を認めない [文献22]より引用] diffuse injury type II : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽はみえる diffuse injury type III : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽の圧迫または消失所見あり diffuse injury type IV : 5mmを超える正中偏位あり</p>		良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)	diffuse injury type I	45.2	21.0	33.9	diffuse injury type II	40.0	22.9	37.1	diffuse injury type III	9.0	6.9	84.0	diffuse injury type IV	15.0	10.0	75.0	total	24.0	13.9	62.1	<p>表8-2 TCDB分類によるびまん性脳損傷の割合と転帰</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>良好群GR/MD (%)</th> <th>不良群SD/VS (%)</th> <th>死亡群D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>diffuse injury type I</td> <td>61.6</td> <td>28.8</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type II</td> <td>34.5</td> <td>52.0</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type III</td> <td>16.4</td> <td>49.7</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type IV</td> <td>6.2</td> <td>37.6</td> <td>56.2</td> </tr> <tr> <td>total</td> <td>28.9</td> <td>47.1</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>diffuse injury type I : CT上明らかな頭蓋内病変を認めない [文献22]より引用] diffuse injury type II : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽はみえる diffuse injury type III : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽の圧迫または消失所見あり diffuse injury type IV : 5mmを超える正中偏位あり</p>		良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)	diffuse injury type I	61.6	28.8	9.6	diffuse injury type II	34.5	52.0	13.5	diffuse injury type III	16.4	49.7	34.0	diffuse injury type IV	6.2	37.6	56.2	total	28.9	47.1	23.9
	良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)																																																	
diffuse injury type I	45.2	21.0	33.9																																																	
diffuse injury type II	40.0	22.9	37.1																																																	
diffuse injury type III	9.0	6.9	84.0																																																	
diffuse injury type IV	15.0	10.0	75.0																																																	
total	24.0	13.9	62.1																																																	
	良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)																																																	
diffuse injury type I	61.6	28.8	9.6																																																	
diffuse injury type II	34.5	52.0	13.5																																																	
diffuse injury type III	16.4	49.7	34.0																																																	
diffuse injury type IV	6.2	37.6	56.2																																																	
total	28.9	47.1	23.9																																																	

※表の数字修正(下表参照)

修正前	表8-2 TCDB分類によるびまん性脳損傷の割合と転帰																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>良好群GR/MD (%)</th> <th>不良群SD/VS (%)</th> <th>死亡群D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>diffuse injury type I</td> <td>45.2</td> <td>21.0</td> <td>33.9</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type II</td> <td>40.0</td> <td>22.9</td> <td>37.1</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type III</td> <td>9.0</td> <td>6.9</td> <td>84.0</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type IV</td> <td>15.0</td> <td>10.0</td> <td>75.0</td> </tr> <tr> <td>total</td> <td>24.0</td> <td>13.9</td> <td>62.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>diffuse injury type I : CT上明らかな頭蓋内病変を認めない [文献22]より引用] diffuse injury type II : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽はみえる diffuse injury type III : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽の圧迫または消失所見あり diffuse injury type IV : 5mmを超える正中偏位あり</p>		良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)	diffuse injury type I	45.2	21.0	33.9	diffuse injury type II	40.0	22.9	37.1	diffuse injury type III	9.0	6.9	84.0	diffuse injury type IV	15.0	10.0	75.0	total	24.0	13.9	62.1
	良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)																						
diffuse injury type I	45.2	21.0	33.9																						
diffuse injury type II	40.0	22.9	37.1																						
diffuse injury type III	9.0	6.9	84.0																						
diffuse injury type IV	15.0	10.0	75.0																						
total	24.0	13.9	62.1																						

修正後	表8-2 TCDB分類によるびまん性脳損傷の割合と転帰																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>良好群GR/MD (%)</th> <th>不良群SD/VS (%)</th> <th>死亡群D (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>diffuse injury type I</td> <td>61.6</td> <td>28.8</td> <td>9.6</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type II</td> <td>34.5</td> <td>52.0</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type III</td> <td>16.4</td> <td>49.7</td> <td>34.0</td> </tr> <tr> <td>diffuse injury type IV</td> <td>6.2</td> <td>37.6</td> <td>56.2</td> </tr> <tr> <td>total</td> <td>28.9</td> <td>47.1</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table> <p>diffuse injury type I : CT上明らかな頭蓋内病変を認めない [文献22]より引用] diffuse injury type II : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽はみえる diffuse injury type III : 5mm以下の正中偏位あり、脳底槽の圧迫または消失所見あり diffuse injury type IV : 5mmを超える正中偏位あり</p>		良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)	diffuse injury type I	61.6	28.8	9.6	diffuse injury type II	34.5	52.0	13.5	diffuse injury type III	16.4	49.7	34.0	diffuse injury type IV	6.2	37.6	56.2	total	28.9	47.1	23.9
	良好群GR/MD (%)	不良群SD/VS (%)	死亡群D (%)																						
diffuse injury type I	61.6	28.8	9.6																						
diffuse injury type II	34.5	52.0	13.5																						
diffuse injury type III	16.4	49.7	34.0																						
diffuse injury type IV	6.2	37.6	56.2																						
total	28.9	47.1	23.9																						

修正前

PSと蘇生によりA・B・Cが安定するまでSSには移らない。意識・バイタルが変化したら再度A・B・C確認

切迫するDに対する頭部CTの優先

観察のポイント

- ・A・B・Cが安定していることが必須条件
- ・条件が整えば引き続き全身CTも考慮

病歴聴取：AMPLE

観察のポイント

アレルギー / 服薬 / 既往歴・妊娠 / 最終飲食 / 受傷機転

全身観察：頭から爪先まで / 前面・背面 / すべての孔 「訴えを聞いて、見て、聴いて、触って」

頭部・顔面

観察のポイント

- ・頭蓋骨骨折、頭蓋底骨折、顔面骨骨折
- ・眼球・眼窩壁損傷
- ・歯牙・舌・咽頭の損傷
- ・鼓膜・耳道・耳介の損傷
- ・顔面の神経、唾液腺、涙腺などの損傷

行うべき処置

- ・訴え：頭痛、視力低下、複視、聴力障害、咬合障害など
- ・視診：創傷、raccoon's eyes, Battle's sign
眼瞼・眼球の創傷、眼球運動の異常
口腔・鼻腔・外耳道・鼓膜などの創傷・血腫、髄液耳漏・鼻漏
- ・触診：対称性・凹凸・段差、異常可動性、圧痛

頸部：補助者に頭部を正中中間位で保持させ、頸椎カラーを愛護的にはずして診察

観察のポイント

前面：喉頭気管・血管・腕神経叢の損傷

行うべき処置

- ・訴え：疼痛、頸部絞扼感、咽頭違和感、咳、血痰
- ・視診：創傷、皮下出血、穿通創、腫脹
- ・聴診：嗚声、頸動脈雑音、血管振動
- ・触診：圧痛、皮下気腫、拍動する腫瘍、thrill

観察のポイント

後面：頸椎脱臼／骨折、頸椎捻挫など

行うべき処置

- ・訴え：疼痛、運動痛、運動制限、四肢のしびれ、麻痺
- ・触診：棘突起の圧痛

四肢

観察のポイント

骨折、脱臼、血管損傷、軟部組織損傷、筋区画症候群など

行うべき処置

- ・訴え：疼痛、運動制限、しびれ、筋力の左右差
激しい疼痛と局所の腫脹→筋区画症候群を疑う
- ・視診：創傷、変形、腫脹、蒼白
- ・触診：脈の触知／CRT
- ・知覚・運動・循環の評価

胸部

観察のポイント

肺挫傷、大動脈損傷、気管／気管支、鈍的心損傷、食道損傷、横隔膜損傷、気胸、血胸 PATBED2X

行うべき処置

- ・訴え：呼吸困難、胸背部痛、血痰
- ・視診：創傷、穿通創、呼吸様式、胸郭変形
- ・触診：皮下気腫、胸骨・鎖骨・肋骨などの圧痛・変形
- ・聴診：呼吸音異常および左右差
- ・打診：鼓音、濁音

腹部

観察のポイント

実質臓器・管腔臓器・大血管の損傷

行うべき処置

- ・訴え：疼痛、吐血、下血、悪心・嘔吐
- ・視診：創傷、穿通創、膨隆など
- ・触診：圧痛、反跳痛、筋性防御
- ・聴打診：腸雑音の異常、叩打痛など

骨盤・会陰

観察のポイント

骨盤骨折と合併損傷（後腹膜出血、尿路、直腸損傷）

行うべき処置

- ・骨盤骨折の診断はX線写真優先
- ・訴え：腰殿部痛、股関節・大腿痛
- ・視診：創傷、下肢長差、下肢の異常肢位、
会陰・陰囊の皮下血腫、外尿道出血
- ・直腸診：肛門括約筋の緊張、直腸壁の連続性、
前立腺の位置異常、恥骨骨折の感触、血液の付着

神経所見：意識 / 瞳孔 / 四肢麻痺

観察のポイント

頭蓋内損傷、脊椎損傷

行うべき処置

- ・意識レベル（GCS）、瞳孔所見、麻痺、知覚異常
- ・腹式呼吸、持続勃起

背面

行うべき処置

- ・Log rollかflat lift
- ・実施前後でバイタルサイン確認

最後にFIXESを確認し、根本治療と転送の判断（または院内紹介）を行う。
感染予防対策として、破傷風トキソイド、破傷風グロブリン、抗菌薬の適応と種類の判断を行う。

修正後

PSと蘇生によりA・B・Cが安定するまでSSには移らない。意識・バイタルが変化したら再度A・B・C確認

切迫するDに対する頭部CTの優先

- ・A・B・Cが安定していることが必須条件
- ・条件が整えば引き続き全身CTも考慮

病歴聴取：AMPLE

アレルギー / 服薬 / 既往歴 / 妊娠 / 最終飲食 / 受傷機転

全身観察：頭から爪先まで / 前面・背面 / すべての孔 「訴えを聞いて、見て、聴いて、触って」

頭部・顔面

検索する損傷

- ・頭蓋骨骨折、頭蓋底骨折、顔面骨骨折
- ・眼球・眼窩壁損傷
- ・歯牙・舌・咽頭の損傷
- ・鼓膜・耳道・耳介の損傷
- ・顔面の神経、唾液腺、涙腺などの損傷

観察のポイント

- ・訴え：頭痛、視力低下、複視、聴力障害、咬合障害など
- ・視診：創傷、raccoon's eyes, Battle's sign
眼瞼・眼球の創傷、眼球運動の異常
口腔・鼻腔・外耳道・鼓膜などの創傷・血腫、髄液耳漏・鼻漏
- ・触診：対称性・凹凸・段差、異常可動性、圧痛

頸部：補助者に頭部を正中中間位で保持させ、頸椎カラーを愛護的にはずして診察

検索する損傷

前面：喉頭気管・血管・腕神経叢の損傷

観察のポイント

- ・訴え：疼痛、頸部絞扼感、咽頭違和感、咳、血痰
- ・視診：創傷、皮下出血、穿通創、腫脹
- ・聴診：嚙声、頸動脈雑音、血管振動
- ・触診：圧痛、皮下気腫、拍動する腫瘤、thrill

検索する損傷

後面：頸椎脱臼／骨折、頸椎捻挫など

観察のポイント

- ・訴え：疼痛、運動痛、運動制限、四肢のしびれ、麻痺
- ・触診：棘突起の圧痛

四肢

検索する損傷

骨折、脱臼、血管損傷、軟部組織損傷、筋区画症候群など

観察のポイント

- ・訴え：疼痛、運動制限、しびれ、筋力の左右差
激しい疼痛と局所の腫脹→筋区画症候群を疑う
- ・視診：創傷、変形、腫脹、蒼白
- ・触診：脈の触知／CRT
- ・知覚・運動・循環の評価

胸部

検索する損傷

肺挫傷、大動脈損傷、気管／気管支、鈍的心損傷、食道損傷、横膈膜損傷、気胸、血胸 PATBED2X

観察のポイント

- ・訴え：呼吸困難、胸背部痛、血痰
- ・視診：創傷、穿通創、呼吸様式、胸郭変形
- ・触診：皮下気腫、胸骨・鎖骨・肋骨などの圧痛・変形
- ・聴診：呼吸音異常および左右差
- ・打診：鼓音、濁音
- ・EFAST

腹部

検索する損傷

実質臓器・管腔臓器・大血管の損傷

観察のポイント

- ・訴え：疼痛、吐血、下血、悪心・嘔吐
- ・視診：創傷、穿通創、膨隆など
- ・触診：圧痛、反跳痛、筋性防御
- ・聴打診：腸雑音の異常、叩打痛など

骨盤・会陰

検索する損傷

骨盤骨折と合併損傷（後腹膜出血、尿路、直腸損傷）

観察のポイント

- ・骨盤骨折の診断はX線写真優先
- ・訴え：腰殿部痛、股関節・大腿痛
- ・視診：創傷、下肢長差、下肢の異常肢位、会陰・陰囊の皮下血腫、外尿道出血
- ・直腸診：肛門括約筋の緊張、直腸壁の連続性、前立腺の位置異常、恥骨骨折の感触、血液の付着

神経所見：意識 / 瞳孔 / 四肢麻痺

検索する損傷

頭蓋内損傷、脊椎損傷

観察のポイント

- ・意識レベル（GCS）、瞳孔所見、麻痺、知覚異常
- ・腹式呼吸、持続勃起

背面

観察のポイント

- ・Log rollかflat lift
- ・実施前後でバイタルサイン確認

最後にFIXESを確認し、根本治療と転送の判断（または院内紹介）を行う。

感染予防対策として、破傷風トキソイド、破傷風グロブリン、抗菌薬の適応と種類の判断を行う。

p.51	第3章「外傷と循環」	右段、下から5・6行目	また、緊張性気胸の鑑別にはEFASTが有用である(第5章「胸部外傷」p82参照)。	削除
p.61	技能3-1「ショックとFAST」	「4. EFAST」	<p>適応:</p> <ul style="list-style-type: none"> PSで緊張性気胸を疑った場合 SSの胸部診察時に気胸の可能性がある場合 <p>方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> リニアプローブ(なければコンベックスプローブでも可) 鎖骨中線、第2肋間もしくは第3肋間 縦切り Bモードでsliding signの有無を確認する。 Mモードでseashore signがbarcode signが確認する。 <p>気胸がある場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> Sliding signの消失 Seashore signではなくbarcode signを認める。 	<p>EFASTは身体所見やX線写真では認知できないような軽微な気胸の検出に有用。ただし、皮下気腫があると観察できないことがある。</p> <p>適応:</p> <ol style="list-style-type: none"> 気胸の可能性のある場合にSSで行う。 気管挿管下に隣圧換気を行う場合にはPSでも行う(陰性ならSSで再検査する)。 <p>方法:</p> <ul style="list-style-type: none"> プローブはリニアプローブの方が見やすいが、コンベックスプローブでも可。 鎖骨中線、第2肋間もしくは第3肋間。 縦切り(肋骨と肋骨の間で見える)。 Bモードでlung slidingの有無を確認する。 Mモードでseashore signの有無を確認する。 <p>気胸がある場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> Bモードでlung slidingが消失する。 Mモードでseashore signが消失し、代わりにbarcode signを認める。
p.81	第5章「胸部外傷」	右段、(2)超音波検査、5・6行目	正常では壁側胸膜の下方で臓側胸膜が呼吸運動に合わせてスライドする様子(lung sliding またはpleural sliding)や、肺表面でのcomet tail artifactが観察される(図5-8)。	正常では壁側胸膜の下方で臓側胸膜が呼吸運動に合わせてスライドする様子(lung sliding またはpleural sliding)や、肺表面でのcomet tail artifactが観察される(図5-8)。
p.82		右段、下から6・7行目	さらにMモード表示にするとバーコードのような直線のみがみえるstratosphere signが認められる。	さらにMモード表示にするとバーコードのような直線(barcode sign)が認められる。
p.135	第8章「頭部外傷」	表8-3タイトル 表8-3	表8-3 表8-3	表8-3 表8-3
p.164	第11章「脊椎・骨髄外傷」	右段、5行目～	なお軽症であっても表8-3に記載した危険因子が存在すれば、早めに頭部CT検査を行う。	なお軽症であっても表8-3に記載した危険因子が存在すれば、 より慎重に対応する。
p.291	Appendix4「外傷疫学」	右段、下から4行目	損傷臓(C5~C7)	損傷臓(C3~C5)
p.291		表A4-1	外因の合計	部位別損傷 外因種別の合計
p.293	表A4-4	表A4-4	表A4-4 外傷と主な急性病の罹患患者数	表A4-4 外傷と主な急性病の罹患患者数
p.295	Appendix4「外傷疫学」	表A4-5	表A4-5 外傷患者の総数および死の実際	表A4-5 外傷患者の総数および死の実際
p.322	Appendix10「重要な用語・略語」	略語と暗記法	具体的には、GCS合計点が8以下、意識レベルの急激な低下(GCS合計点で2以上の低下)、瞳孔不同やCushing現象などから脳ヘルニア徴候が出現したときとする。	具体的には、①GCS合計点が8以下、②意識レベルの急激な低下(GCS合計点で2以上の低下)、③瞳孔不同やCushing現象などから 脳ヘルニア徴候が疑われる重症頭部外傷 のときとする。

修正前

表 A4-4 外傷と主な救急疾病の推計患者数

傷病分類別にみた 受療の実態	入院患者数の推計						外来患者数の推計			
	推計退院 患者数		推計入院患者数				推計外来患者数			
			入院の総数		うち新入院		外来の総数		うち初診外来	
	千人/月	割合	千人/月	割合	人/日	割合	人/日	割合	人/日	割合
総数	1364.0	100%	1318.8	100%	52.9	100%	7238.4	100%	1369.3	100%
〔Ⅱ 新生物〕	251.6	18.4%	144.9	11.0%	10.2	19.3%	231.6	3.2%	31.5	2.3%
〔Ⅸ 循環器系の疾患〕	177.9	13.0%	240.1	18.2%	7.7	14.6%	933.0	12.9%	35.3	2.6%
うち、ACS (I20～21)	43.0	3.2%	15.3	1.2%	2.2	4.2%	59.7	0.8%	3.6	0.3%
うち、脳卒中 (I60～64)	58.4	4.3%	159.4	12.1%	2.3	4.3%	94.0	1.3%	7.0	0.5%
〔Ⅹ 呼吸器系の疾患〕	113.2	8.3%	90.7	6.9%	4.2	7.9%	668.4	9.2%	265.6	19.4%
〔Ⅺ 消化器系の疾患〕	162.4	11.9%	65.9	5.0%	6.2	11.7%	1310.0	18.1%	263.9	19.3%
〔ⅩⅨ 損傷、中毒及び その他の外因の影響〕	130.6	9.5%	131.3	10.0%	4.9	9.3%	306.5	4.2%	58.8	4.3%
うち、外傷 (S00～T14)	110.6	8.1%	121.2	9.2%	4.3	8.1%	279.6	3.9%	51.2	3.7%

平成26年患者調査；推計退院患者とは平成26年10月の1カ月間に医療施設（病院、有床診療所）から退院した患者から推計したもので、データは「閲覧第45表 推計退院患者数、性・年齢階級×傷病小分類×病院—一般診療所別（e0045）」より作成。推計入院（または外来）患者数とは調査日の1日での患者数であり、データは「閲覧第6表（その1）推計患者数、性・年齢階級×傷病小分類×施設の種類・入院—外来の種別別（総数）（et0006）」より抽出した

修正後

表 A4-4 外傷と主な救急疾病の推計患者数

傷病分類別にみた 受療の実態	入院患者数の推計						外来患者数の推計			
	推計退院 患者数		推計入院患者数				推計外来患者数			
			入院の総数		うち新入院		外来の総数		うち初診外来	
	千人/月	割合	千人/日	割合	千人/日	割合	千人/日	割合	千人/日	割合
総数	1364.0	100%	1318.8	100%	52.9	100%	7238.4	100%	1369.3	100%
〔Ⅱ 新生物〕	251.6	18.4%	144.9	11.0%	10.2	19.3%	231.6	3.2%	31.5	2.3%
〔Ⅸ 循環器系の疾患〕	177.9	13.0%	240.1	18.2%	7.7	14.6%	933.0	12.9%	35.3	2.6%
うち、ACS (I20～21)	43.0	3.2%	12.1	0.9%	2.2	4.2%	59.7	0.8%	3.6	0.3%
うち、脳卒中 (I60～64)	58.4	4.3%	151.3	11.5%	2.3	4.3%	94.0	1.3%	7.0	0.5%
〔Ⅹ 呼吸器系の疾患〕	113.2	8.3%	90.7	6.9%	4.2	7.9%	668.4	9.2%	265.6	19.4%
〔Ⅺ 消化器系の疾患〕	162.4	11.9%	65.9	5.0%	6.2	11.7%	1310.0	18.1%	263.9	19.3%
〔ⅩⅨ 損傷、中毒及び その他の外因の影響〕	130.6	9.5%	131.3	10.0%	4.9	9.3%	306.5	4.2%	58.8	4.3%
うち、外傷 (S00～T14)	110.5	8.1%	121.2	9.2%	4.3	8.1%	279.6	3.9%	51.2	3.7%

平成26年患者調査；推計退院患者とは平成26年10月の1カ月間に医療施設（病院、有床診療所）から退院した患者から推計したもので、データは「閲覧第45表 推計退院患者数、性・年齢階級×傷病小分類×病院—一般診療所別（e0045）」より作成。推計入院（または外来）患者数とは調査日の1日での患者数であり、データは「閲覧第6表（その1）推計患者数、性・年齢階級×傷病小分類×施設の種類・入院—外来の種別別（総数）（et0006）」より抽出した

修正前

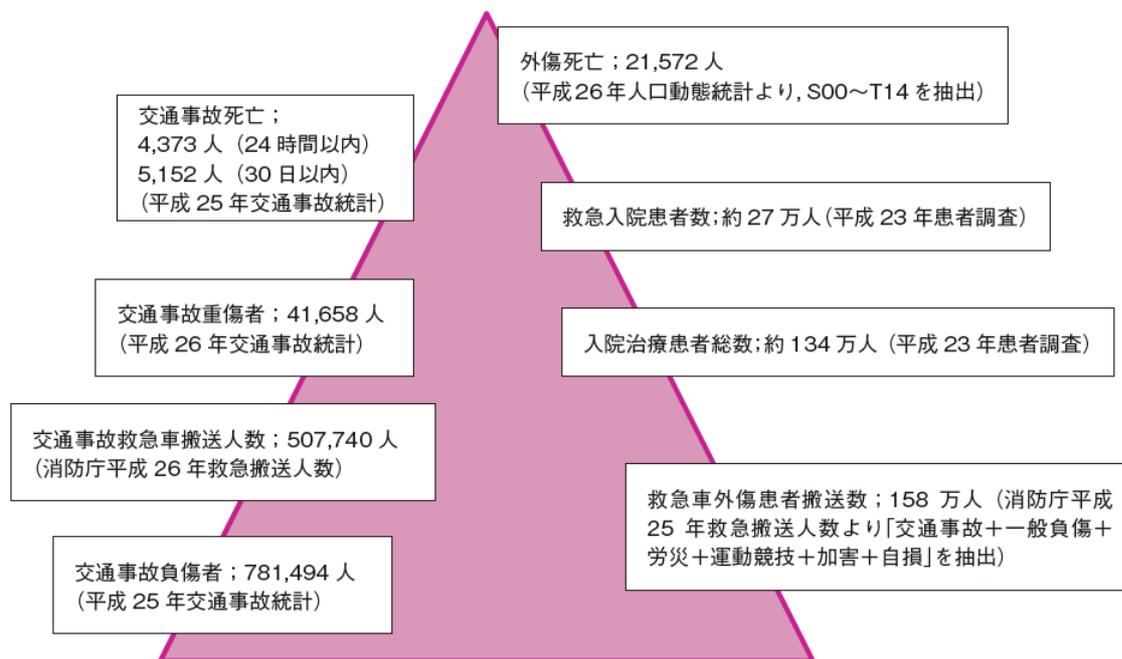


図 A4-5 外傷患者の診療および死亡の実態

データは2015年12月時点で公表されている次の統計を使用した

- ・入院・外来に関する患者調査：平成23年患者調査 (e-stat)
- ・死亡統計：平成26年人口動態統計 (e-stat)
- ・救急車搬送患者数：平成25年の救急出動状況 (速報) (消防庁報道資料)
- ・交通事故死亡、負傷者数：平成26年交通事故統計 (e-stat)

修正後

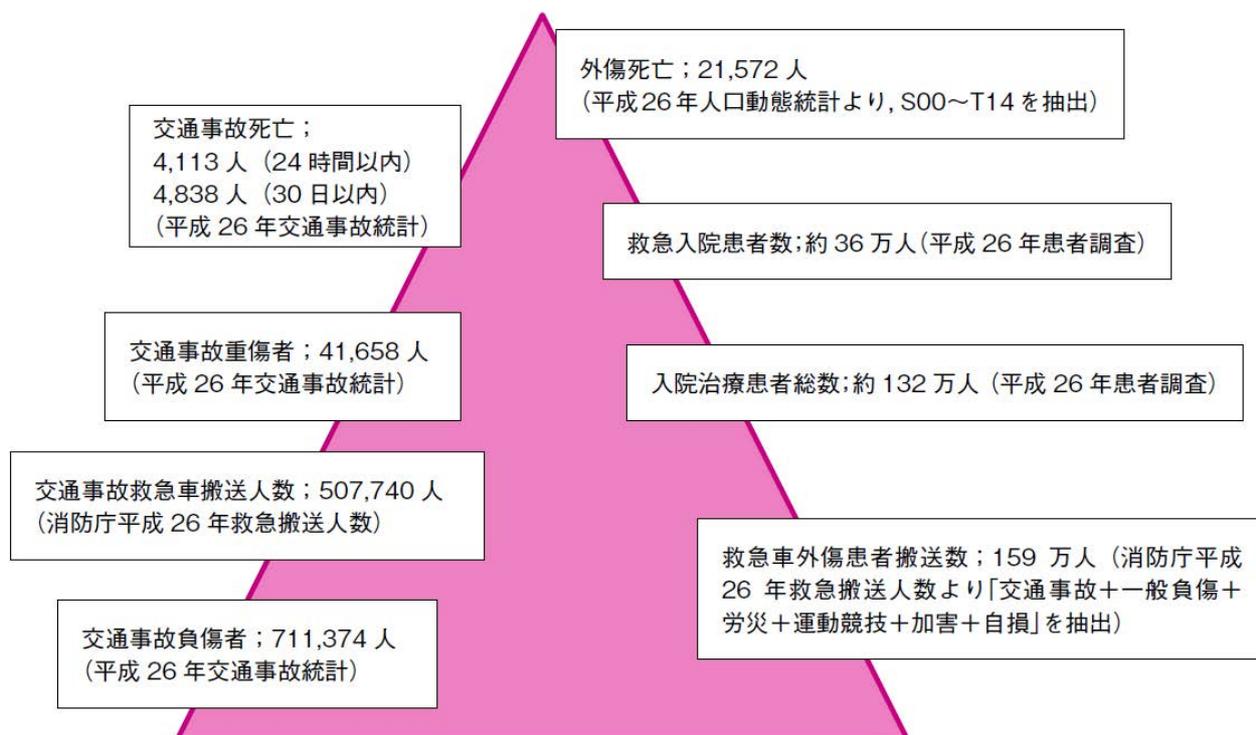


図 A4-5 外傷患者の診療および死亡の実態

データは2015年12月時点で公表されている次の統計を使用した

- ・入院・外来に関する患者調査：平成26年患者調査（e-stat）
- ・死亡統計：平成26年人口動態統計（e-stat）
- ・救急車搬送患者数：平成26年の救急出動状況（速報）（消防庁報道資料）
- ・交通事故死亡，負傷者数：平成26年交通事故統計（e-stat）

●2刷りにて訂正

ページ	章	修正箇所	修正前	修正後
p.2	第1章「初期診療総論」	図1-1タイトル	生命維持の仕組み	生命維持の仕組みと 障害
p.63	技能3-2「IOI(骨髄内輸液)」	図3-2-1		
p.113	第7章「骨盤外傷」	右段、「II 解剖」, 9行目ほか	肋骨(横)突起	横(肋骨)突起
p.188	第13章「熱傷・電撃傷」	左段、「1. A: 気道の評価」, 3行目	とくに、生理学的に気道の狭い小児においては、気道閉塞をきたしやすい。	とくに、 小児では気道が狭いため 、気道閉塞をきたしやすい。
p.265	第20章「複数患者への対応」	図20-2	左右入れ替え	

修正前

図3-2-1 骨髄路確保の手技

修正後

図3-2-1 骨髄路確保の手技